

牛道春秋

駐在妻の棚

▼冬休みに入った年の瀬、武儀町にある実家の母から電話がかかってきました。▼電話は年の瀬で忙しいだろうから子供達を預かってあげてもいいよ。」という内容でしたが、私には孫と一緒に年越しをしたい。「あなた達は別にいいけどね。」と聞こえました。▼駐在所に赴任する前は両親と同居していたので母の気持ちも理解できました。▼両親から孫を取り上げた後ろめたさを多少感じていた私は冷え切った(であろう)夫婦関係の両親の元へ子供達を送り込みました。▼子供達は両親の元へ喜んで泊まりに行き、年越しをして正月2日に駐在所に帰って来ました。▼子供達のいない年越しを初めて経験しましたが、実に味気のないものを感じました。▼テレビの中で郷ひろみが、いくら「ジャパン！」と叫んでもいまいち気持ちが盛り上がりませんでした。▼主人は仕事でいないことが常なので、別に年越しにいてもいなくても構いませんが、やはり年越しには、蕎麦と七味と子供達は欠かせないと痛感した年末年始でした。

